巻頭言

成田空港‘ACTION’プロジェクト
―千葉県経済の好循環が生み出す国際競争力の向上―

1. はじめに

2010年10月の成田国際空港（以下、「成田空港」という）の発着容量30万回化の合意以来、国際線・国内線の新規就航や増便、LCCの新規就航、オープンスカイの実施など成田空港を取り巻く動きが活発化しています。さらに、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックでは、日本の空のゲートウェイとして最大限の大会への協力はもちろんのこと、世界に向けて千葉の魅力をアピールする絶好の機会が訪れます。

このような中で、成田空港への鉄道やバスなどのアクセスの向上、首都圏中央連絡自動車道（以下、「圏央道」という）や北千葉道路などの道路ネットワークの整備などが着実に進展することにより、成田空港を中心とした広域的な人・物・財の流れが生まれてきています。

この新たな動きを取り込み、成田空港の高まるポテンシャルを千葉県経済の活性化や国際競争力の向上につなげるため、2011年12月に千葉県知事を座長とした「グレード・アップ『ナリタ』活用戦略会議」が設置され、官民一体となった議論を重ねてまいりました。

そして、2012年９月に「成田空港を活用した経済活性化戦略（提言）」が取りまとめられ、その実現を図るため、県内の経済団体や民間事業者ならびに行政といった多様な主体が結集して2013年７月に「成田空港活用協議会」が設立され、成田空港及び圏央道等の高速道路網を活用した千葉県経済の活性化の取組みを「オール千葉」で一丸となって進めています。

2.「オール千葉」による国際競争力の向上

このような背景のもと、成田空港の成長と地域経済の発展が連動した「千葉県経済の好循環」を生み出していくために、官民一体となって新しいプロジェクト「成田空港‘ACTION’プロジェクトを進めています。［Activate Chiba's-economy Through Inter-city-expressway-network and Our Narita airport］

成田空港活用協議会では、コラボレーション（連携）、パートナーシップ（協力体制）、シェアリング（共有）の３つのコンセプトに基づき、「オール千葉での相乗効果の最大化」を実現させるユニークな事業を実施しているところです。その際、民間のアイディアを取り込むために会員からの事業提案制度など新たな事業フレームにも挑戦しています。

事業は国際競争力の向上にも寄与する６つの柱から構成されており、それぞれの概要を説明します。

国内線就航先や海外での‘ちば’PR事業、新しい旅行商品の開発・情報発信、マーケットリサーチ、外国人客の受け入れ体制の整備支援等を行う「国内線利用者の県内観光の推進事業」、「インバウンド県内観光の推進事業」です。

また、企業などに対しての県内経済活性化セミナーや物流・農産物輸出等に関するビジネス支援、空港を活用した情報・魅力の発信とともに成田空港自体を楽しむ事業、教育関連事業との連携、各機関の産業振興策の共有・PRを進める「成田空港発の県内企業ビジネスの創出事業」、「ナリタファンの拡大事業」です。

成田空港活用協議会 会長
（一般社団法人 千葉県商工会議所連合会 会長）　石井 俊昭（いしい としあき）

さらに、成田空港利用促進キャンペーン、空港へのアクセスや改善PR、さらなる利便性の向上に関する検討・施策の実施を行う「OUR AIRPORTとしての利用促進事業」、「成田空港の利便性向上事業」です。

3. 成田空港と圏央道等を活用した経済の活性化

2015年６月に圏央道神崎（こうざき）ICから大栄（たいえい）JCT間が開通し、東関東道と常磐道がつながり、都心を経由せずに北関東地域や東北地方から成田空港へのアクセスが可能となりました。国土交通省等の発表によると、１日当たり約１万台の交通量で、つくば市から空港周辺の物流拠点までの輸送時間が約40分も短縮されました。つくば市（つくば中央IC）から西側も、平成27年度中に境古河ICまで開通し東北道と関越道につながる予定になっています。こうした圏央道の整備進展を見越して、例えば古河名崎工業団地（境古河IC）には日野自動車の進出が決まり、また、阿見東部工業団地（阿見東IC）には雪印メグミルクなどが進出するなど、茨城県内の工業団地では企業や物流施設の立地が進んでいます。今後、圏央道の整備が進み、茨城県を始め北関東と成田空港とのアクセスが向上することにより、物流施設や製造業の立地がさらに加速すると思われます。

千葉県においても、大栄JCTから松尾横芝IC間が開通すれば、圏央道の県内区間が全通し、アクアラインを経由して京浜地域とも結ばれ、物流面でのさらなる利便性の向上に加え、企業立地などでも大きな効果が見込まれており、そのため千葉県では、圏央道の県内区間の整備により成田空港と直結する「茂原にいはる」「袖ヶ浦椎の森」の２つの工業団地の整備を進め、平成29年度に分譲開始する予定です。また、北千葉道路の整備が進み、東京外かく環状道路と直結することにより、成田空港と都心方面とのアクセスがさらに向上します。

このように、圏央道や北千葉道路の整備が進展することにより、各地方の生産拠点と一大物流拠点である成田空港をスムーズにつなぐことにもなり、成田空港の発展効果を首都圏だけでなく、全国に波及させていくことも期待されます。

4. おわりに

成田空港は東京オリンピック・パラリンピックの開催や、さらなる訪日外国人の増加による首都圏の国際競争力強化や観光立国推進のためにさまざまな機能強化を進めています。例えば、今年４月に完成した第３ターミナルは750万人対応の施設で、従来に比べ整備コストを４割削減したため利用者が負担する施設利用料を低廉な価格に抑えられています。

成田空港活用協議会は、日本の表玄関としての成田空港の機能強化を支援するとともに、成田空港と道路ネットワークの構築による千葉県経済の好循環、地域経済の活性化及び国際競争力の向上に向け、「オール千葉」で一丸となって進めてまいります。